

R03 渡公教「共通取組シート 2021（兼実践のまとめ）」（木古内町）教頭会

<p>【研究主題】 ～子どもの学びを保障するための組織作りに係る教育環境整備と、組織の活性化を目指した教頭のマネジメント力の向上～</p> <p><令和3年度の重点></p> <p>【視点1】 子供の学びを保障するための組織的な ICT 機器等の活用とマネジメント</p>		
<p>○ ICT 機器の活用</p>	<p>ICT機器活用の具体的な実践について</p>	<p>実践における成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・木古内町は、小・中学校ともに、令和2年度末にipad(第7世代)とキーボード(ケース一体型)が整備された。また、校内には、高速WIFIネットワークが、各学級には50インチのモニターとAppleTV(メディアストリーミング端末)が整備されている。その他、各学年に充電保管庫(輪番タイマー付き)も配備されている。ソフト面ではAppleの無料標準アプリの他に、主にGSuite for education及びロイロノートを導入している。 ・ロイロノートを活用し、児童の考えやアイデア等をアプリ上で回収し、大型モニター上で共有し、交流する活動を行っている。 ・グーグルのクラスルームを活用し、個別最適な学びや協働的な学びの授業改善が行われるようになった。 ・授業後の感想や振り返りもネットを通じて集約する取り組みも進んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートはほとんどの学年で活用されており、考えを整理したり、意見の交流に使用したりと大変有効に活用されている。また、クラウド上に無制限にデータ保存できるため、子供たちの活動を動画に撮り、動きのチェックなども有効である。それらの動画を担当が後からチェックできるので評価にも大いに活用できる。 ・文章等をノートに「書く」活動も大切にしており、書いた紙面をカメラで撮り、エアドロップ機能を使って画像として集め、それらを交流や評価に活用できることも利点である。 ・子供たちは、新たな取組に食らいつき、意欲をもって授業に参加している。そのため、操作技能の向上がみられる。 ・短時間で解答ができるため進んで取り組む姿がみられる。
<p>○ 異校種間、学校間との協働性、家庭・地域との組織的な連携</p>	<p>外部との具体的な協働・連携について</p>	<p>協働・連携の成果について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・町のICT支援員を有効活用すべく、校内研修をオンライン(コロナ禍の為)で行うなどの工夫をしている。主な研修内容は、アプリの紹介や具体的な使用方法等を行っている。 ・小学校:クレバーキッズ熊谷氏、中学校:D-School 藤澤氏を支援員として招聘し、校内研修や個人へのアドバイスをお願いしている。 ・地域によってはネット環境が整備されていないため町教委にケータイ用モバイルを準備していただいている。今後は、持ち帰りのルールの徹底が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで行う事で負担感なく、気軽に研修活動が出来ることは、メリットである。 ・具体的なアプリや使用方法を教えていただく事で、すぐに指導に生かすことができた。 ・日常の活用方法や操作方法等のアドバイザーとして、ロイロノート有効活用における資質・能力の向上が図られている。 ・学校と家庭をオンラインで繋ぐため、一部の生徒に依頼し実証検証をした結果、繋がるまでの時間やデータのやりとりとスムーズにいかない点があったため、練習が必要である。また、別に家庭用充電ケーブルが必要である。
<p>○ 課題把握と改善点について(研究主題に迫る教頭の関わりという視点も加味してください)</p>	<p>視点1に係る具体的な課題について</p>	<p>視点1に係る具体的な改善点について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教師によってはICTが苦手な方もいるので、組織的にと言う事が課題として挙げられる。児童・生徒はもちろんのこと、担当教師も誰もが有効にICT端末を活用する事が必要であるが、ICT活用能力や端末操作に係る技能面での個人差が大きい。 ・ICT活用をさげ、以前のままの授業にこだわりを持つ教師もいる。ツールとしての活用を定着させるの苦手教師の意識改革が急務である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT及びメンター研修的に、校内で得意で先行して取り組んでいる先生を講師として、短時間の研修を繰り返す事で、苦手な先生でも少しずつICT機器に慣れさせていくように促す。教頭は研究部と連携して、このようなミニ研修を意図的に企画するように関与していく事が大切である。 ・いつのまにか取り残されていたと思わせないう、ICT支援員を有効活用する。